

江戸東京

# たてもの園 だより 63

Edo-Tokyo Open Air  
Architectural Museum

特別展「江戸東京博物館コレクション～江戸東京の暮らしと乗り物～」

「たてもの園住宅地」の開発

収蔵建造物紹介—たてもの園の看板建築たち ⑥植村邸

たてもの園ナビ 近日公開!!

令和6年度 事業予定

スケッチブック／たてもの園日誌

# 江戸東京博物館コレクション

## 江戸東京のくらしと乗り物

2024年（令和6）3月23日（土）～7月7日（日）



人力車

都市にはさまざまな乗り物が活躍しています。加えて時代によっても車種は独特でした。乗り物は都市の時代相を表現していると言えるでしょう。

では、乗車している人はどうでしょうか。時代が流れればのぼるほど、身分・階層が限定されます。このための法制すらありました。また乗り物の運行に伴い、動力となる力者もいました。無論、乗り物を製作する職人もいました。乗り物に注目すると都市に暮らすさまざまな人々の営みが浮かびあがってきます。今日では通勤・通学さらにはお買い物などの、さまざまな日常生活の場面で、一人乗りの乗り物が活躍しています。オートバイや自転車などです。身近になった乗り物ですが、歴史を振り返ってみますと、一人乗りの乗り物には時代ごとにさまざまな背景があるようです。

### 江戸時代の「乗物」

乗り物に関するコレクションとして、まず掲げられるのは江戸東京博物館の常設展示室を飾る女乗物ほかの江戸時代の「乗物」です。江戸時代以前、乗り物と言えば、牛車・輿・駕籠などさまざまなものがありました。このうち江戸では、露出して乗車し、腰をおろす床が狭い駕籠と屋根や四壁を持つ「乗物」が主でした。どの場合も自走するものではなく、動力には人がかかっていました。



黒塗牡丹唐草蒔絵雑道具 女乗物

加えて、大半の乗り物の利用は身分や階層にかかわって許可が出され、外装などが定められていました。豊臣政権において法令に定められており、また江戸時代の武家諸法度にも規定が設けられていました。徳川家康でさえ、牛車の利用は征夷大將軍に任官した時に朝廷より許可があったのです。展示のなかでは遠山景元が病のために、馬での勤めが適わず、療養中に限って駕籠を利用したいと申請している古文書を展示します。果たして景元はどのような病のために申請したのでしょうか。その事情は展示室でご確認ください。多くの武士が集まる江戸は、さまざまな

「乗物」が利用されてきました。地方城下町には見られない「乗物」の景観が江戸時代の江戸にはあったこととなります。

### 自転車の登場

江戸から明治へと移り変わると、駕籠や「乗物」は姿を消します。その様相は当時の日本橋などの名所を描いた錦絵に窥えます。画題には自転車や馬車が登場



東京日本橋之景（展示期間：5/28～7/7）



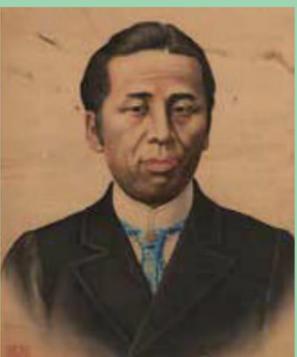
時絵人力車 車体

していました。この新しい乗り物の登場は時代の転換を象徴的に表現しています。この自転車はどのように生産されていたのでしょうか。鉄砲の生産地として著名な和泉国堺では同職からの転換が指摘されています。展示では近江国長浜の国友で活躍した鉄砲鍛冶による自転車を紹介いたします。このように職を失った鉄砲鍛冶職人が製作にかかわった事実があったようです。

### 人力車の明治時代

もう一つ、忘れることができない乗り物は人力車です。この人力車も明治という時代のなかで進化しました。登場の当初には時絵人力車と呼ばれる、豪華な時絵で装飾された人力車がありました。あ

るいは技法的に女乗物を製作した職人がかかっていたのでしょうか。しかし、政府の規制を受け、豪華な装飾の人力車は姿を消し、黒塗りの人力車が主流となります。



初代秋葉大助肖像画（展示期間：3/23～5/26）

その人力車生産で注目されたのが、銀座にあった秋葉商店です。初代秋葉大助は人力車の改良を重ね各地に供給しました。二代秋葉大助はさらに販路を天津、上海、香港、台湾、さらにはアフリカにまで拡大しています。この秋葉商店にかかわる館蔵資料を展示で紹介いたします。

### 鉄道の時代へ

現代社会ではとても身近な乗り物である鉄道は、1872年（明治5）に開業しました。およそ29kmある新橋横浜間を53分で結び、画期的なデビューを果たしました。蒸気機関車の運行開始に加え、馬を動力とする乗合馬車、後には馬車鉄道が登場します。しかしさまざまな状況により、馬車鉄道は全て廃止となります。



絵葉書 東京市電気局最新式ボギー車

〈東京都江戸東京博物館は、ただいま大規模改修工事を行っています。あらたな魅力をともなった博物館となって、2025年度に再開することを目指しています。〉

# 「たてもの園住宅地」の開発

1993年（平成5）3月28日に開園した江戸東京たてもの園は、30周年を迎えました。

開園当初は子宝湯をはじめとする東ゾーンの商店の建設が中心でしたが、翌年から西ゾーンの整備が始まりました。【写真1】西ゾーンは、いわゆる武蔵野の雑木林でした。その樹木を移植したり伐採したりしながら、建物を建てるための敷地を整えていきました。

東ゾーンの建物は、もともとお客様が来るように作られた「商店」だったので、商売がわかるように展示を充実させることに注力しました。しかし、西ゾーンの建物は、家族が住んでいた住宅に、多くの来園者が靴をぬいで室内に入って見学することになるので、展示方法は大きな課題でした。

その最初の建物になったのは、1995年（平成7）に復元された田園調布の家（大川邸）です。【写真2】この建物にもともとお住まいだった大川ご一家は、建築当時の図面類や、工事中の記録写真



【写真1】西ゾーン開発前の様子 (1994年)



【写真2】大川邸工事開始 (1994年)



【写真4】居間の寄木張り (1994年)



【写真5】床板をはるための膠を煮ているようす (1994年)



【写真6】完成した大川邸



【写真7】大川邸居間 (大川家所蔵写真)

を含めて、多くの資料をお手元に保存しておられました。大正時代に撮影された古い写真に写っている大川満子さん【写真3】は、復元工事のころは98歳。お元気でわたしたちに当時のことをあれこれ話をしてくださいました。田園調布で建設工事をしているとき、床板をはるために接着剤として膠を煮ていたが、その匂いが強烈でもとも臭かった、というエピソードをうかがったのですが、たてもの園での工事のとき、わたしもその匂いを嗅ぐこととなり、「大川さんがおっしゃっていたのはこれか!」と、同じ体験をすることができました。【写真4・5】



【写真3】台所に立つ大川満子さん (大川家所蔵写真)

図面や写真、当時の聞き取りなどの豊富な情報のおかげで、大川邸の展示は充実し、その後の西ゾーンの住宅展示の方向性が定まったといえます。【写真6・7】

その数年後、隣に前川國男邸の建設工事が始まり、また翌年には小出邸の建設工事が始まり、雑木林だった場所に住宅が林立していきました。まるで、本当の郊外住宅地の開発と同じことがたてもの園内で行われていたことになりました。

バリアフリーという考え方がなかった時代、家族が住んでいた小さな住宅を、博物館として多くの方にご覧いただくためには、スロープをつけたり、エレベーターを取り付けたり、できる範囲の工夫を重ねています。不十分な点多々ありますが、わたしたちも改善の努力は続けていきますので、見守っていただけると幸いです。

(学芸員 早川典子)

## ⑥ 植村邸

重要な特質なのです。

日本の伝統とモダンで自由なデザイン、その両方が見事に融合した看板建築として、植村邸は特筆すべき建物と言えるでしょう。

(研究員 米山勇)



側面から正面玄関へと高まっていく庇

東ゾーンの看板建築を紹介する本連載も、最後になりました。トリを飾るのは、植村邸です。もともとは1927年（昭和2）、時計や貴金属を扱う商店として中央区新富町（現、新富）に建てられた建物で、1998年（平成10）、江戸東京たてもの園に移築されました。

本連載の第3回でご紹介した丸二商店の向かいに建ち、ともにファサード（正面外観）が銅で覆われています。丸二商店が細かな銅板張りを連続させているのに対し、植村邸は、木部を銅でくるんだような仕上げになっており、それぞれ異なった職人技を堪能することができます。

植村邸の平面形状はほぼ正方形で、お店部分の奥行きがずいぶん浅いのが特徴です。台所が建物の正面脇にあるのも看板建築にしては珍しく、これらは、建設当時から店舗販売を行っていなかったことに関係すると思われます。外観は、とても考え抜かれたデザインです。プロポーションの確かさもさることながら、庇の位置が、側面から正面玄関へと少しずつ高まっていくデザインがみごとです（右写真）。設計にあたったのは施主の植村三郎氏自身と考えられていますが、既に失われた建物も含め、都内の看板建築の中でもっとも完成度の高いものの一つでしょう。

一方、1階部分が左右非対称なのに、2階から上が左右対称なのは、とても重要なポイントです。実はこれ、日本の伝統的な美意識の表れなのです。たとえば、京都の金閣、銀閣、西本願寺飛雲閣は「京の三閣」として知られます。いずれも左右対称を大胆に崩した構成が印象的ですが、よく見るとどの建物も最上層は左右対称になっています。植村邸に見られるような、左右非対称の下層部に対称の上層部を載せる構成は、室町時代以降の日本建築に通底してき



植村邸正面外観



正面脇に配された台所



# 事業予定

2024年4月 ▶ 2025年3月

復元建造物や季節にちなんだ催事を開催します。

## 展示年間スケジュール

- 江戸東京博物館コレクション ～江戸東京のくらしと乗り物～ 3月23日(土)～7月7日(日)
- 街に写真館のあった頃 ～常盤台写真場と昭和モダン～ 7月27日(土)～9月23日(月・休)
- 武蔵野の歴史と民俗 ～「武蔵野郷土館」がのこしたモノたち～ 10月5日(土)～12月15日(日)
- 江戸東京博物館コレクション ～江戸東京のくらしと食べ物～(仮称) 2025年3月20日(木・祝)～6月15日(日)

### 4月

13日(土)・14日(日)  
伝統工芸の実演

### 5月

4日(土・祝)・5日(日・祝)  
こどもの日イベント



こどもの日にちなんだ、昔のあそびやくらしの体験を楽しもう！

11日(土)・12日(日)  
伝統工芸の実演

### 6月

8日(土)・9日(日)  
伝統工芸の実演

### 7月

13日(土)・14日(日)  
伝統工芸の実演

### 8月

3日(土)・4日(日)  
【夜間特別開園】  
たてもの園 下町夕涼み



下町の提灯のあかりや風鈴の音色など夏の宵の風情をお楽しみください。

10日(土)・11日(日・祝)  
伝統工芸の実演

### 9月

14日(土)・15日(日)  
伝統工芸の実演

### 10月

12日(土)・13日(日)  
伝統工芸の実演

### 11月

9日(土)・10日(日)  
伝統工芸の実演

23日(土・祝)・24日(日)

【夜間特別開園】  
紅葉とたてものライトアップ



紅葉が深まる時季、色づく木々と建物をほのかな光で美しく照らし出します。

### 12月

14日(土)・15日(日)  
伝統工芸の実演

### 1月

2日(木)・3日(金)  
たてもの園でお正月



しめ飾りや門松が立つ園内で、獅子舞や太神楽など新年にふさわしい催しを行います。

11日(土)・12日(日)  
伝統工芸の実演

13日(月・祝)

成人の日はたてもの園へ



ハレの日の記念に、人力車での園内めぐりや昭和の写真館での記念撮影ができます。

### 2月

8日(土)・9日(日)  
伝統工芸の実演

### 3月

8日(土)・9日(日)  
伝統工芸の実演

27日(木)・28日(金)

たてもの園フェスティバル



桜のつぼみがほころぶ季節に大人も子ども楽しめるさまざまな催しで盛り上がります。

28日(金)

たてもの園開園記念日  
(入園無料)

### 伝統工芸の実演

毎月第2土曜日と翌日曜日  
東京の伝統工芸士による実演を見ることができます。

### ミュージアムトーク

毎月第4土曜日  
当園の学芸員、研究員、建築技術専門員が展示や建造物について解説します。

### 網島家年中行事

梅の土用干し・盆棚飾り・十五夜飾り・節分など、季節に応じた年中行事の展示を実施しています。

※開催日や内容・名称が変更になることがあります。詳しくは公式ウェブサイトをご覧ください。写真は過去の催しの様子です。

# たてもの園ナビ

近日公開!!

初めて行った施設が広いと、どのように回っていいかわからない場合があるのではないのでしょうか。江戸東京たてもの園も敷地面積7ヘクタールのなかに30棟の復元建造物が立ち並ぶ比較的大きな施設です。このような施設に対してよく聞かれるのが「どのような順番で回ったらいいの?」や、「時間がないのでみどころだけ知りたい」といったご意見・ご要望です。確かに30棟の建物を、建物の中に入れる場合はすべて入って見学すると、2時間以上はかかるので、実はたてもの園って園内を歩くだけでも見どころいっぱい施設なのです。

そこで今回、これらのご要望に応えるべく導入するのが、たてもの園鑑賞支援アプリ「たてもの園ナビ」です。「たてもの園ナビ」はお手持ちのスマートフォンで二次元コードまたは公式ホームページから簡単にアクセスするだけでご利用いただけます。ご来園の方々の見学をこれまで以上にサポートできるシステムで、下のような特徴があります。そしてもう一つ。「たてもの園ナビ」はダウンロードをしなくてもブラウザ上で動くアプリですので、お手持ちのスマートフォンの容量に負荷がかかることもありません。見たいときに簡単に見ることが出来る優れたものです。

たてもの園に見学の際には「たてもの園ナビ」をお試ください。



### 画面上の園内マップに自分のいる場所が表示され、見たい建物を探しやすい!

入園の際にお配りするパンフレットや園内に設置している案内図もありますが、たてもの園ナビではGPSを使用して、ご自身がいる場所と見学したい建物の位置がわかるようになっています。建物の一覧画面を開いて見学したい建物をクリックしていただければ、園内マップ上に現在位置と目的の建物が表示されます。



### 建物ごとの一押しのみどころをお知らせします!!

建物にたどり着いて、建物を目の前にすると、これってどこが特徴的なの?という疑問がわきますよね。そこで園内マップからその建物をクリックすると、建物全体の概要と、ここがみどころ!という説明が表示されるので、見学のアシストとしてご利用ください。



### ARで、当時の様子などを再現!!!

写真や映像などをもとに、実際には展示できない建物内部での生活の様子などをAR(Augmented Reality=拡張現実)を使って再現します。スマートフォンの画面越しに昔の生活の様子や、移築前の古写真などをお楽しみください。



※画像は制作中の画面です。実際の画面とは異なる場合があります。

# 伊達家の門とオニヤンマ君

木造建築にとって虫害は切っても切り離せない問題です。もっとも有名なのはシロアリ類による木材の食害でしょうか。たてもの園のように野外博物館として伝統的な木造建築を展示している場合、直接的な間接的に様々な虫害の被害に日々対処する必要があります。

今回お話しするのは、そんな虫害の中でも危険性が最も高いスズメバチについてです。数年前から毎年、復元建造物の「伊達家の門」周辺でスズメバチの姿が多くみられるようになりまして。どうやら「屋根内部に巣を作られて



「伊達家の門」とオニヤンマ君 (中心付近)



風を受けて回るオニヤンマ君



スズメバチのこも巻き飾り

しまったようです。スズメバチ自体は建築に対して直接的に大きな被害を与えるわけではありませんが、付近を通る人の安全を考えると対処が必要です。巣そのものの撤去は屋根の解体をしなければならぬので最終手段として、周辺に罠を設置したり、蜂の出入り口と思われる建築の隙間や穴を塞いだりと毎年手を尽くしましたが良い効果は得られませんでした。そこで今年度は巷で話題になっているスズメバチの天敵であるオニヤンマを模した虫よけグッズの「オニヤンマ君」を投入。風に揺られてくるくと回るオニヤンマ君に恐れをなしたのか今年度は伊達家の門にスズメバチが寄り付くことはありませんでした。実際の効果は分からないので様々な手段を継続的に続けていく必要がありますが、今年度に関しては「オニヤンマ様様」でした。

(専門技術員 持主宅)

## たてもの園日誌 2023年(令和5)10月～2024年(令和6)3月

### 2023年(令和5)

10/1(日)	都民の日(入園無料)
10/14(土)・15(日)	伝統工芸の実演「トンボ玉/木版摺刷」
10/21(土)・22(日)	東京大茶会2023(主催:東京都、アーツカウンシル東京)(入園無料)
10/24(火)～29(日)	網島家年中行事「十三夜飾り」
10/28(土)	ミュージアムトーク「特別展『江戸東京博物館コレクション～江戸東京のまちづくり～』みどころ」
11/11(土)・12(日)	伝統工芸の実演「刀剣研磨/べつ甲細工」
11/25(土)	ミュージアムトーク「三井邸に刻まれた建築物語」
11/25(土)・26(日)	夜間特別開園 紅葉とたてものライトアップ
11/30(木)～12/24(日)	網島家年中行事「大根干し」
12/9(土)・10(日)	伝統工芸の実演「竹工芸/陶芸」
12/23(土)	ミュージアムトーク「居酒屋・鍵屋」
12/25(月)～1/1(月・祝)	年末年始休園

### 2024年(令和6)

1/2(火)・3(水)	正月特別開園(入園無料)
-------------	--------------

1/8(月・祝)	成人の日はたてもの園へ
1/10(水)～1/14(日)	網島家年中行事「小正月・繭玉飾り」
1/13(土)・14(日)	伝統工芸の実演「村山大島紬/型染・木版染」
1/27(土)	ミュージアムトーク「ビジターセンター(旧光華殿)修繕工事」
2/3(土)	網島家年中行事「節分」
2/10(土)・11(日・祝)	伝統工芸の実演「墨流し料紙/仏像彫刻」
2/24(土)	ミュージアムトーク「高橋是清邸」
3/9(土)・10(日)	伝統工芸の実演「牙彫/鼈甲眼鏡」
3/16(土)～	開園時間を夏時間に変更
3/18(月)	臨時開園
3/23(土)～7/7(日)	特別展「江戸東京博物館コレクション～江戸東京のくらしと乗り物～」
3/23(土)	ミュージアムトーク「特別展『江戸東京博物館コレクション～江戸東京のくらしと乗り物～』みどころ」
3/25(月)	臨時開園
3/27(水)・28(木)	たてもの園フェスティバル
3/28(木)	たてもの園開園記念日(入園無料)

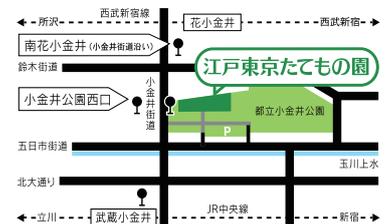
建造物修繕などの工事 ビジターセンター(旧光華殿) 令和5年8月29日(火)～令和6年3月下旬

**開園時間**  
4月～9月 9:30～17:30  
10月～3月 9:30～16:30  
※入園は開園の30分前まで

**休園日**  
毎週月曜日(月曜日が祝休日の場合はその翌日)  
年末年始

**交通**  
JR中央線「武蔵小金井」駅よりバス5分 北口2・3番のりばから→「小金井公園西口」下車、徒歩5分  
西武新宿線「花小金井」駅よりバス5分 「南花小金井(小金井街道沿い)」から武蔵小金井駅行き→「小金井公園西口」下車、徒歩5分  
※ご来園の際は公共交通機関をご利用ください。当園専用駐車場はありません。車の場合は、小金井公園内の有料駐車場をご利用ください。

**観覧料**  
一般 400円(320円)  
65歳以上の方 200円(160円)  
大学生(専修・各種含む) 320円(250円)  
高校生・中学生(都外) 200円(160円)  
※( )は有料入園者20名以上の団体料金  
**中学生(都内在住・在学)および小学生以下は無料**



※ご来園の際は、最新情報を公式ウェブサイトでご確認ください。